

ISAP 2017

**SDGsとマルチ・ベネフィット・アプローチ：
アジアにおける政策行動の選択肢**

SDGs達成への貢献に向けて JICAの取り組み

国際協力機構（JICA）

企画部国際援助協調企画室/SDGs推進班

久保倉 健

JICAのSDGs方針の3本柱

2016年9月策定

国際社会の平和、安定、繁栄を目指し、
人間の安全保障と質の高い成長を実現する。
SDGsは、この理念を加速、推進するものであり、
リーダーシップを発揮しゴールの達成に積極的に取り組む。

我が国自身と開発協力の経験を活かせる
SDGsの10のゴールで中心的役割を果たしつつ、
SDGsへ統合的に取り組む。

SDGs達成を加速するため、国内の知見の活用、
国内外のパートナーとの連携、イノベーションを図り、
SDGsの達成に向けてインパクトを確保する。

JICAは10のゴールで中心的役割を果たし より上位の究極的ゴール達成を目指す



都市×環境

11 住み続けられるまちづくりを



13 気候変動に具体的な対策を



12 つくる責任つかう責任



「アジア地域の低炭素社会化シナリオの開発プロジェクト」

- マレーシア
- 2011年6月～2016年6月
- 技術協力事業

マレーシア工科大学と京都大学大学院の研究チームの連携
「SATREPS（地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム）」



マレーシアの都市イスカンダル。クアラルンプールに次ぐ第二の経済都市圏

社会経済状況全般の調査	「低炭素社会ブループリント」 (2025年までの計画)
都市の交通量	植林活動、コンポストの推進
エネルギー	公共交通機関の利用促進
環境負荷	生活家電節電、ごみの分別
⇒情報を整備 ⇒将来的にどのように変化させていくか（ビジョンづくり）	⇒「エコライフチャレンジ」紹介（京都市の取り組み） ⇒地元コミュニティの巻き込み

セクター越えた取り組みによる 包括的な母子保健の改善

3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



6 安全な水とトイレを世界中に



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



プロジェクト研究の目的

- インフラ、水衛生、教育の3分野の介入と母子保健向上との関係性を先行研究文献のレビュー、回帰・統計分析等で検証
- 検証結果に基づき対象分野における**セクターを越えた事業の付加価値をエビデンスをもって可視化**
- 包括的な取組の実践に向け、標準指標例の作成、案件形成への提言等



調査結果（一部）

例) 道路橋梁維持管理強化により、安全な出産へのアクセスが可能になる
 例) 上水サービスの改善が子どもの感染症削減、初中等教育が妊産婦の健診率向上などへ統計上強い相関関係あり。

⇒母子保健への効果を期待する案件形成では、保健以外のセクターを含む分野横断的・マルチセクトラルな視点で目標設定行うべき。